

第 6 專門技術群 (情報系)

第6 専門技術群（情報系） 専門研修の報告

第6 専門技術群運営委員会

1. はじめに

第6 専門技術群（情報系）は、平成24年度に2回の専門研修を開催した。参加者数は以下のとおりであった。

第1回専門研修（平成24年10月19日開催）： 29名（6群27名、その他2名）

第2回専門研修（平成25年 2月15日開催）： 21名（6群15名、その他6名）

今年度の専門研修は、第1回目を「情報環境機構の教員による専門講義と業務成果などの技術発表」を中心とした内容、第2回目を「大学におけるソーシャルメディアの活用」を中心テーマとした民間現場技術者による講義と受講者によるワークショップを内容とした研修を実施した。

本稿では、これらの専門研修の要旨を述べ報告とする。

2. 第1回専門研修

2-1 専門講義「IPv6とその運用について」



情報環境機構 力武 健次 教授による「IPv6とその運用について」と題する講義がおこなわれた。IPv4アドレスの枯渇の実状や、IPv6の技術的詳細について分かりやすくお話しをしていただき、さらにKUINSでのIPv6の展開と今後についての解説やIPv6はIP枯渇の救世主になりうるか等興味深い講義をしていただくことができた。

2-2 技術発表

午前中に片桐座長の司会進行により、2件の技術発表が行われた。

2-2-1 演題1 「ネットブートと仮想デスクトップを採用した京都大学の 教育用端末系の構築：TCO削減を目指して」 情報部 情報基盤課 教育支援グループ 石井良和 技術職員



石井技術職員より平成24年3月に更新された新しい教育用端末系のシステムにおいて、従来のシステムの課題を解決したその背景、設計及び導入効果に関する発表が行われた。

2-2-2 演題2「効率の良い無線アクセスポイント設置について」 数理解析研究所 附属計算機構研究施設 岸本典文 技術職員



岸本技術職員より数理解析研究所において所員や研究集会参加者向けに運用している無線LANシステムの紹介とアクセスポイントの設置に関して留意すべき点についての発表が行われた。

午後からは、前半を赤坂座長の司会進行により、3件の技術発表が行われた。

2-2-3 演題3「京都大学術情報ネットワークシステム接続機器管理 システム(KUINS-DB)の構築」 情報部 情報基盤課 情報環境支援グループ 高見好男 技術専門職員



高見技術専門職員より京都大学学術情報ネットワーク (KUINS) で構築・運用している「KUINS接続機器登録データベース」が2011年5月に更新され、その更新の背景や改良点の詳細についての発表が行われた。

2-2-4 演題4「Ploneによる工学研究科ウェブサイトの運用」 工学研究科 附属情報センター 奥中敬浩 技術職員



奥中技術職員より多機能なCMSであるPloneを用いて構築されている工学部・工学研究科のウェブサイトの運用について、現在の運用状況と今後の課題に関する発表が行われた。

2-2-5 演題5「新スーパーコンピュータシステムの構成と運用」 情報部 情報基盤課 研究支援グループ 斎藤紀恵 技術職員



斎藤技術職員より2012年5月に運用が開始された新しいスーパーコンピュータシステムの構成、システム設計、サービスコース設計、ジョブスケジューリング、稼働状況などに関する発表が行われた。

休憩をはさみ、後半は植木座長の司会進行により、4件の技術発表が行われた。

2-2-6 演題6「原子炉実験所における情報系技術職員の業務」 原子炉実験所 宮部誠人 技術職員

宮部技術職員より原子炉実験所における情報系技術職員の役割や業務内容に関する事例等の詳細についての発表が行われた。



2-2-7 演題7「インフラ技術者が作るWebアプリの事例紹介」 情報部 情報基盤課 針木剛 技術専門職員

針木技術専門職員より情報部の汎用コンピュータシステムの業務において、自ら開発したWebアプリケーションに関する開発事例について発表が行われた。



2-2-8 演題8「全学システムとしてのiPadペーパーレス会議システム：概要と導入における問題点」 生命科学研究科 澤田浩文 技術職員

澤田技術職員より2012年10月に導入したタブレット端末を用いたペーパーレス会議システムの概要と機能の紹介及び部局発案の全学システム導入において直面した課題についての考察についての発表が行われた。



2-2-9 演題9「脆弱性診断システムの運用について」 情報部 相楽真太郎 技術専門職員

相楽技術専門職員より情報環境機構において導入が進められている脆弱性診断システムの概要及び運用についての発表が行われた。



2-3 まとめ

2年ぶりに企画した技術発表中心の研修会であったが、9件に及ぶ多数の発表が行われその内容も充実した内容で好評であった。

当日の役割分担は以下のとおりである。

担当内容	担当者
会場準備	疋田 淳一
受付	奥中 敬浩、岸本 典文
開会挨拶・講義司会	福村 一三
午前の部座長	片桐 統
午後の部座長	赤坂 浩一、植木 徹
まとめと閉会挨拶	平野 彰雄
カメラ担当	疋田 淳一

最後に表1および表2に受講者名簿と当日のプログラムを記す。

(表1) 受講者名簿

	所属	氏名	所属専門技術群
1	情報部情報基盤課	斎藤 紀恵	第6専門技術群
2	情報部情報基盤課	針木 剛	第6専門技術群
3	情報部情報基盤課	高見 好男	第6専門技術群
4	情報部情報基盤課	石井 良和	第6専門技術群
5	情報部情報基盤課	相楽 真太郎	第6専門技術群
6	情報部情報基盤課	疋田 淳一	第6専門技術群
7	情報部情報基盤課	山口 倉平	第6専門技術群
8	情報部情報基盤課	池田 健二	第6専門技術群
9	情報部情報基盤課	赤坂 浩一	第6専門技術群
10	情報部情報基盤課	赤尾 健介	第6専門技術群
11	情報部情報基盤課	植木 徹	第6専門技術群
12	情報部情報基盤課	四方 敏明	第6専門技術群
13	情報部情報基盤課	平野 彰雄	第6専門技術群
14	附属図書館情報管理課	武田 鋼	第6専門技術群
15	理学研究科	片桐 統	第6専門技術群

16	理学研究科	馬渡 秀夫	第3専門技術群
17	理学研究科	高畑 武志	第6専門技術群
18	工学研究科	山岡 莊	第6専門技術群
19	工学研究科附属情報センター	奥中 敬浩	第6専門技術群
20	工学研究科附属情報センター	浅野 義直	第6専門技術群
21	エネルギー科学研究科	廣岡 良隆	第2専門技術群
22	情報学研究科	丸山 卓也	第6専門技術群
23	生命科学研究科	澤田 浩文	第6専門技術群
24	基礎物理学研究所	福村 一三	第6専門技術群
25	数理解析研究所附属計算機構研究施設	岸本 典文	第6専門技術群
26	原子炉実験所・総務課	宮部 誠人	第6専門技術群
27	原子炉実験所・技術室	平井 康博	第6専門技術群
28	フィールド科学教育研究センター	楨田 盤	第6専門技術群
29	フィールド科学教育研究センター	中村 はる奈	第6専門技術群

(表2) プログラム

時 間	内 容
8 : 4 5 ~ 9 : 1 5	受 付 (学術情報メディアセンター北館 3階 講習室)
9 : 1 5 ~ 9 : 2 0	開会挨拶
9 : 2 0 ~ 1 1 : 0 0	「IPv6 とその運用について」 情報環境機構 力武 健次 教授
1 1 : 0 0 ~ 1 1 : 1 0	休 憩 (1 0分)
1 1 : 1 0 ~ 1 1 : 4 0	技術発表 8件 「ネットブートと仮想デスクトップを採用した京都大学の 教育用端末系の構築：TCO 削減を目指して」 情報部 石井 良和
1 1 : 4 0 ~ 1 2 : 1 0	「効率の良い無線アクセスポイント設置について」 数理解析研究所 岸本 典文

12:10～13:10	昼食(60分)
13:10～13:40	「京都大学術情報ネットワークシステム接続機器管理システム(KUINS-DB)の構築」 情報部 高見 好男
13:40～14:10	「Ploneによる工学研究科ウェブサイトの運用」 工学研究科 奥中 敬浩
14:10～14:40	「新スーパーコンピュータシステムの構成と運用」 情報部 斎藤 紀恵
14:40～15:00	休憩(20分)
15:00～15:30	「原子炉実験所における情報系技術職員の業務」 原子炉実験所 宮部 誠人
15:30～16:00	「インフラ技術者が作るWebアプリの事例紹介」 情報部 針木 剛
16:00～16:30	「全学システムとしてのiPadペーパーレス会議システム：概要と導入における問題点」 生命科学研究科 澤田 浩文
16:30～17:00	「脆弱性診断システムの運用について」 情報部 相楽 真太郎
17:00～17:10	まとめと閉会挨拶
18:00～	懇親会

3. 第2回専門研修

3-1. 講義「大学におけるソーシャルメディアの活用」

株式会社ループス・コミュニケーションズ 上梨能寛シニアコンサルタントによる講義が行われた。その概要を報告する。

まず最初に現在利用されている主要なソーシャルメディア（Facebook, Twitter, Google+, SlideShare等）の概要説明が行われ、その機能や特徴についての説明があった。さらに現在の大学生の活用状況や私立大学（早稲田大学、芝浦工業大学等）での活用事例の紹介がおこなわれた。

最後に、既に一部の大学では全体のICT戦略の重要課題としてソーシャルメディア戦略に注力しており、大学においてソーシャルメディアを利用する事により得られるメリットは多々存在すると締めくくられた。



3-2. ワークショップ

澤田技術職員の司会進行により、4グループに分かれてワークショップが行われた。講師の上梨能寛氏のナビゲートのもとに各グループで 1) 何の目的で 2) 誰を対象に 3) どのソーシャルメディアを利用し 4) それをどのような方法で認知させ、大学においてソーシャルメディアの活用がどのような方法で可能か討論を行った。その結果、様々な視点からユニークな提案が行われ有意義なワークショップとなった。

大学において、その活用はまだまだ発展段階のメディアではあるが今後その利用は増加していくことが予想され、このようなテーマで討論を行ったことは非常に良い経験となり今後の業務改善に役立つものとなると思われる。

3-3. まとめ

ソーシャルメディアについては、受講者の中でも全く利用していない人も少なからずおり、若い世代の活用状況との差が目立った。しかしながら日進月歩のICT(Information and Communication Technology)を使ったコミュニケーションの在り方が変わりつつあると同時に、このようなツールは多くの企業でもマーケティング戦略等に積極的に活用され、大きな効果をもたらしている。京都大学においても広報活

動の一環として既に一部が活用されており、今後ますます活用の範囲が広がることが考えられる。このような状況から、今回ソーシャルメディアを用いた情報技術の活用に関する研修を行ったことは、大変有意義であった。

当日の役割分担は以下のとおりである。

担当内容	担当者
受付	岸本 典文
開会挨拶	平野 彰雄
司会進行	澤田 浩文
カメラ担当	片桐 統

最後に、表3および表4に受講者名簿と当日のプログラムを記す。

(表3) 受講者名簿

	所属	氏名	所属専門技術群
1	情報部情報基盤課	四方 敏明	第6 専門技術群
2	情報部情報基盤課	山口 倉平	第6 専門技術群
3	情報部情報基盤課	池田 健二	第6 専門技術群
4	情報部情報基盤課	植木 徹	第6 専門技術群
5	情報部情報基盤課	外村 孝一郎	第6 専門技術群
6	情報部情報基盤課	平野 彰雄	第6 専門技術群
7	理学研究科	片桐 統	第6 専門技術群
8	工学研究科附属情報センター	奥中 敬浩	第6 専門技術群
9	工学研究科附属情報センター	浅野 義直	第6 専門技術群
10	生命科学研究科	澤田 浩文	第6 専門技術群
11	基礎物理学研究所	福村 一三	第6 専門技術群
12	数理解析研究所 附属計算機構研究施設	岸本 典文	第6 専門技術群
13	原子炉実験所技術室	平井 康博	第6 専門技術群

14	原子炉実験所総務課	宮部 誠人	第6 専門技術群
15	フィールド科学教育研究センター	中村 はる奈	第6 専門技術群

この他、オブザーバで教員等6名の参加があった。

(表4) プログラム

時 間	内 容
13:00~13:30	受付 (医学部G棟2階セミナー室A)
13:30~13:35	開会挨拶
13:35~15:00	「大学におけるソーシャルメディアの活用」 上梨 能寛 株式会社ループス・コミュニケーションズ シニアコンサルタント
15:00~15:10	休憩
15:10~16:50	ワークショップ ソーシャルメディアのトレンドを知った後で、具体的に自分とどう関係性や可能性が生まれるのか等を探る事を目的に、幾つかのテーマに沿って、順次講師がナビゲートしながら自分に密接した新しいサービスモデルをプロセスに沿って考え、出来上がったサービスモデルをグループ別に発表し、講師を交え意見交換を行う。
16:50~17:00	質疑応答・アンケート記入